

令和4年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和4年10月14日

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数・理科）の本校の結果をお知らせします。生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。また、国語と算数、理科については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。

【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の事項が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

国語科

- 互いの立場を尊重して話し合いを進める上で、必要なことを質問して話の中心を捉えることはできている。
- 学習指導要領で新たに示された、相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることに課題が見られる。
- 文章の構成や展開について感想や意見を伝え合うことを通して自分の文章のよさを見付けることに課題が見られる。

算数科

- 「データの活用」の領域において、表の各欄と合計欄の意味を理解してある項目に当たる数を求めることはできている。
- 目的に合う円グラフを選び、読み取った情報を答えることに課題が見られる。
- 日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題が見られる。

理科

- 実験の過程や得られた結果を適切に記録したものを選ぶことはできている。
- 「問題の見だし」については、気付いたことを基に分析して解釈し、適切な問題を見出すことに課題が見られる。
- 自然の現象については、知識を日常生活に関連付けて理解することに引き続き課題が見られる。

【本校の全体の正答率について】

国語、算数、理科ともに全体の正答率は、国・県の平均と「ほぼ同じ」です。

【個票の配布について】

個人の結果（個票）については、前期通知表とともに配布をしています。なお、国が採点を行っているため解答用紙の返却はできませんのでご了承ください。

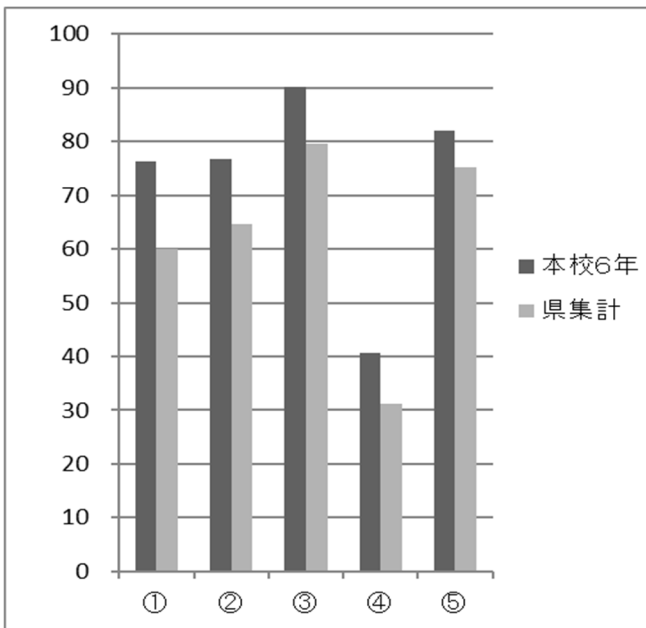
【今後の取り組みについて】

本校では、8月に職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、2学期以降の授業の改善等に生かして、学力の向上を図っていきます。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについては、2学期始業日に「授業及び家庭学習の取り組みについて」を配布してお知らせしています。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。本校の取り組みを御理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆生活習慣に関する調査「6年質問紙（意識調査）」

【 数値が特に高かった項目 】

調査の項目	
①	算数の勉強が好きな割合
②	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談している割合
③	算数の授業の内容がよくわかるという割合
④	平日、1日当たり3時間以上、スマホやゲームをしている割合
⑤	学級活動における学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる割合



【分析と取組】

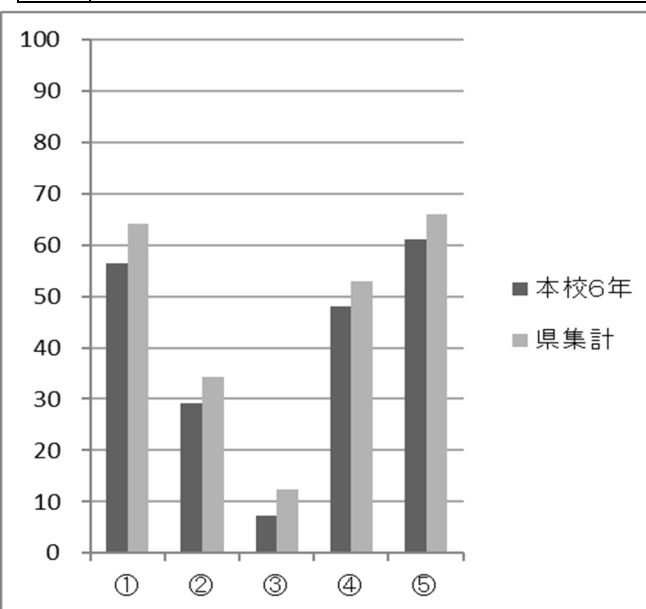
○県平均と比べて、「算数の授業が好き」、「算数の授業の内容はよくわかる」と答えている児童が多い。三日月小は、算数専科の教員がいるので、様々な工夫を行った授業を行うことができています。引き続き、主体的で深い学びにつながるような時間にしていきたい。

○県平均と比べ、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えている児童が多い。今後も、教育相談の充実や、教員との良好な信頼関係づくりに取り組んでいきたい。

○県平均と比べ、普段テレビゲームを3時間以上している児童が多い。家で子どもだけで過ごす時間が多かったり、携帯所持率が高かったりすることが、要因の1つだと考えられる。元気カード、三日月ルール of 指導を継続し、使い方や使う頻度についても外部講師の活用などをして啓発していきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

調査の項目	
①	国語の解答時間は十分だったと回答した割合
②	地域の大人に授業や放課後などで、勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりしている割合
③	新聞を読んでいる割合
④	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をしている割合
⑤	自然の中で遊ぶことや、自然観察をすることがある割合



【分析と取組】

○県平均と比べ、国語科の学習状況調査における解答時間が十分であると答えた児童が少ない。時間配分を意識したり、初見の問題文を読み取ったりする場を多く取り入れることが必要である。

○県平均と比べ、新聞を読んでいる児童が少ない。家庭で新聞を読む機会がない児童が多いことも要因として考えられるが、学校で新聞を取り扱うことで、触れる機会を設けていきたい。

○県平均と比べて、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をしている」と答える児童が少ない。週末の課題として取り組んでいる自主学習の内容を充実させるために、今後も引き続き手本となるノートを紹介したり、個別に指導したりしていきたい。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。
- ・内容別にみると、「言語事項」「書く」「読む」は県平均とほぼ同じである。「話す・聞く」内容は県平均をやや下回っている。
- ・観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県平均とほぼ同じ正答率である。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項のうち、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く問題では、県平均をやや下回っている。 ・漢字については、書けるものもあるが、県平均とほぼ同じものが多い。 	<p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字については、ある程度定着が見られるため、書き取りなど今の手立てを継続する。 ・教科書の单元ごとにある「言葉」のにある表現を確実に押さえ、その表現を使えるようにしておく。
	<p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均よりやや下回っている。互いの立場は意図を明確にしながら話し合い、自分の考えをまとめる問題で、県平均を大きく下回っており、誤答の傾向から、相手の意見を踏まえることはできるが、そこから自分の考えを作り上げることに課題がみられた。 	<p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の弱さが見られるため、目的や意図を明確にした話し合いや相手の意見を踏まえ、自分の考えを伝える活動を設定する。ディベート的な話し合いなどを計画的に設定する。
思考・判断・表現	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均とほぼ同じである。昨年度と同様の傾向が見られ、文章全体の構成や展開を考える問題では、その意図が読み取れず、書き方の工夫が理解できていない。条件に合わせて自分の考えを書く問題では、条件を満たして書く問題に課題が見られた。 	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を満たして、自分の考えを書くことは、慣れが必要であることから、定期的および計画的に条件作文に取り組ませる。
	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均とほぼ同じであるが、全国平均から見ると大きく下回っている。登場人物の相互関係について描写をもとに捉える問題では、県平均を大きく上回っていた。人物像や物語の全体像を想像する問題や表現の効果を考える問題に課題が見られた。 	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語文において、あらすじをまとめたり、登場人物の関係を図にまとめたりする活動や、情景描写の効果を考えさせる活動などを設定する。 ・読書量の確保など、これまでの取り組みを継続する。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- 全体の正答率は県・全国平均とほぼ同じである。
- 領域別では、「データの活用」で県平均をやや上回っている。「図形」は県平均をやや下回っている。
- 文章問題の読み取りが十分できていない。(特に会話形式)

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・割合の問題が、全体として理解が十分でない。文章の中での数量関係がつかめていない。 ・最大公約数と最小公倍数の理解が不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題把握のさせ方を改善する。(問題文に印をつけたり線を引かせたりする) ・プログラミング学習の経験をさせておく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った数の処理の仕方を考えることができていない。 ・回転の大きさとしての角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・類題を数問解かせる。(積の見積もり、概数の処理の方法、四捨五入から範囲を求める問題など) ・4年生の角の学習で、分度器の使い方以外に、回転の大きさとしての角の大きさも経験を十分させておく。 ・記述問題を入念に確認する。 ・問題解決型の学習での自力解決や練りあい活動の充実を目指したい。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 理科 》

全体の概要

- 全体の正答率は県や全国平均とほぼ同じである。
- 領域別では、「生命」が県平均をやや下回っている。
- 観点別では、「知識・技能」が県平均をやや下回っているが、全国平均と比較すると大きく下回っている。
- 記述式では、県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 5年生での学習だけではなく、3、4年生での学習内容が多く出てきているが、正しく定着していない。 • 昆虫に対する問題は毎年出題されているが、正答率が低い。さなぎという言葉を用いて、昆虫の育つ過程を説明できていない。 「さなぎ」という用語を用いていない。 「さなぎ」という用語は使っているが、過程の説明ができていない。 • 実験器具の名称や使い方に関する問題では、全国平均を下回っている。 メスシリンダーのメモリの正しい読み取り方ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実験器具の正しい使い方や、名称など共通して理解できるようにする。 → 班でする際などは、必ず全員が実験器具を使って実験できるようにする。(環境や準備が必要) • 3、4年生での学習を振り返ったり、思い出させたりする機会を多くする。 • 既習事項と関連付けて授業を行なう。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して解釈することができていない。 • 実験結果から、自分の考えをもつことができていない。 • 情報量が多いため、すばやく情報を読み取り、理解する力が必要である。 • 基礎的な理解はできているが、応用問題での正答率が低い。(全国的に) 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の中で、実験→結果→考察の流れを徹底し、自分の考えをもつことができるようにする。自分の言葉でまとめることができるようにする。 • 授業でも、教科書だけの実験だけでなく、活用力を高めることができるような実験を行ない、より理解を深める。